

まちをつなぐオープンな広場をつくる

劇場、展示ホール、市民活動拠点、商業施設のホワイエを一体化させた、開放的で大きな屋内展示広場
市民会館の活動がそのまま都市の体験と地続きにつながり、日常に溶け込み、市街地を活性化させる。



高さを抑えめにし、水戸芸術館のタワーや広場と連携できそうな形態をつくる。水戸芸術館からは現在よりも上空がひらけ、表通りの雰囲気も伝わるように考える。ファサードの背の高い大型ドアを開放すると、都市環境と展示広場が一体となる。

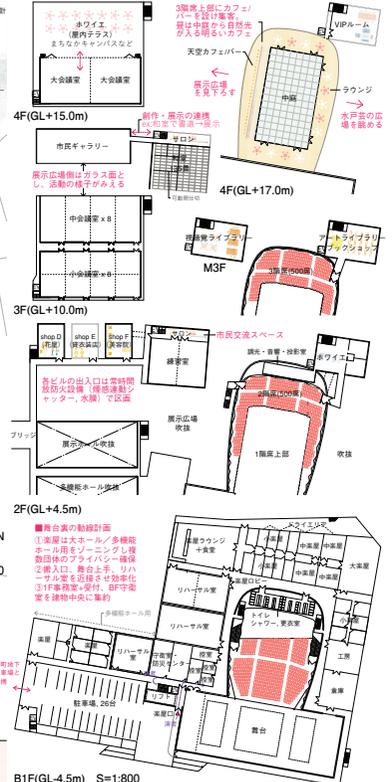
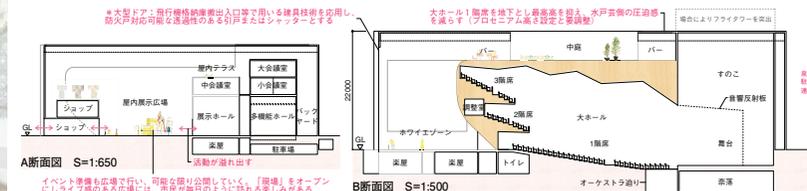
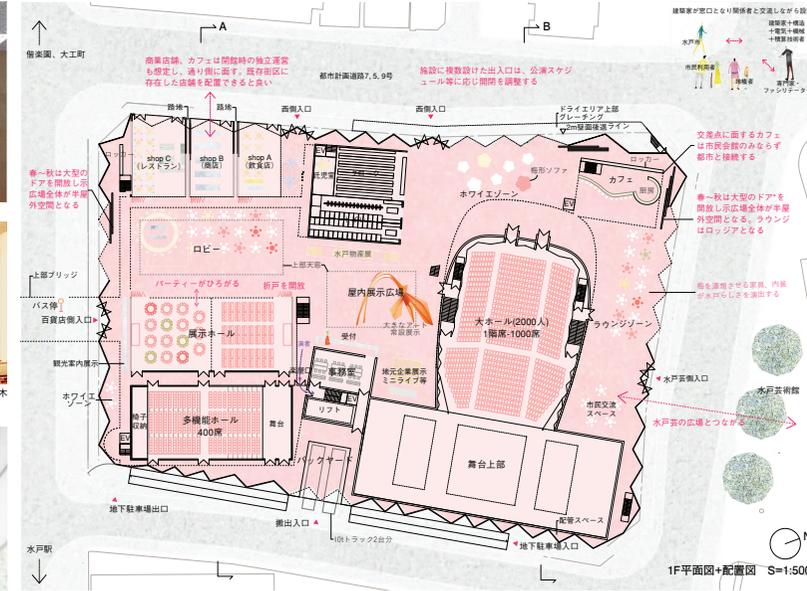
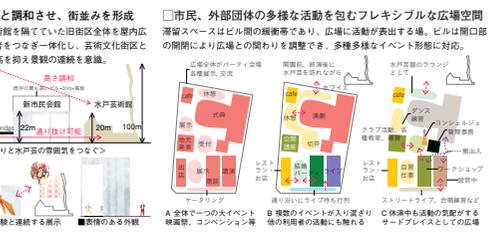
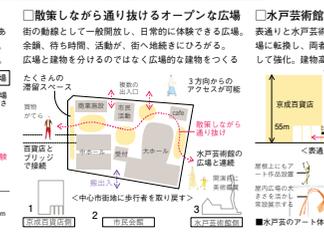
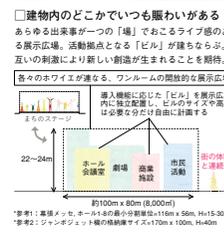
表通り側は、商業や百貨店とも調和する外観、雰囲気をつくる。金属板の外壁により周りと溶け合う外観。百貨店とブリッジで接続すると都市的な景観が形成され、車やバスで移動する人々からの視認性を高める。



広場を通り抜けるだけでなく、体験にシークエンスが生まれ、各滞留スペースでさまざまな活動に繋がる。



展示準備の様子も可能な限り開放する「ライブ」な広場



建物内のどこかでいつも賑わいがある
あらゆる出来事ひとつの「場」で起こるライブ感のある展示広場。活動拠点としての「まち」が建ちながら、互いの刺激より新しい創造が生まれることを期待。
各々のホワイエが導く。フルームの開放的な展示空間
導入機能に合わせた「まち」を展示広場内に独立配置し、ビル内のサイズや高さは必要な分だけ自由に変更する
約100m x 80m (8,000㎡)
*事例1: 展示スペース: ホール: 11.8m x 8.0m (95,840㎡) / 11.8m x 5.6m, H: 15.30m
*事例2: ショッピング: 展示スペース: 11.8m x 100m, H: 4.0m

散策しながら通り抜けるオープンな広場
劇場と水戸芸術館を軸として旧田原全体を屋内展示広場に転換し、両者をつなぎ一体化し、芸術文化街区と広場と建物をつなげるのではなく広場の建物をつくる
3方向からのアクセスが可能
水戸芸術館のタワーや広場と連携できそうな形態をつくる
水戸芸術館のタワーや広場と連携できそうな形態をつくる
水戸芸術館のタワーや広場と連携できそうな形態をつくる

水戸芸術館と調和させ、街並みを形成
表通りと水戸芸術館を軸として旧田原全体を屋内展示広場に転換し、両者をつなぎ一体化し、芸術文化街区として強化。建物高を抑え景観の連続を重視。
市民、外部団体の多様な活動を包みフレキシブルな広場空間
展示スペースはビル間の隙間等であり、広場に活動が表出する。ビルは開口部の開閉により広場との開閉を調整でき、多様なイベント形態に対応。
春、夏、秋は半屋外の開放的な展示広場
暖かい大規模なホールは半屋外広場、冬は閉じて屋内広場とする。ビル内は部屋ごとに個別空調。天井高、中庭を活かした自然換気を行う。
シンプルな構造、防音計画、扉扉のような外観が生まれる
独立配置ボリュームごとに合理的な構造設計(積層荷重、防音性能の違い)が可能
大ホールは音響環境を考慮する。最上層の防音対策は「防音」ではなく「防音」を行う。
開放的でニュートラルな外観
景観に立ち寄る印象を外観で表す
景観に立ち寄る印象を外観で表す
景観に立ち寄る印象を外観で表す

まち(まち)のような市民会館
街のようなボリューム(ビル)配置によって、多様な活動が、それぞれどこで催されているか、初めて訪れる方にもわかりやすく気軽に入れる施設を目指す
まち(まち)のような市民会館
街のようなボリューム(ビル)配置によって、多様な活動が、それぞれどこで催されているか、初めて訪れる方にもわかりやすく気軽に入れる施設を目指す
まち(まち)のような市民会館
街のようなボリューム(ビル)配置によって、多様な活動が、それぞれどこで催されているか、初めて訪れる方にもわかりやすく気軽に入れる施設を目指す